

令和7年度 第13回 近畿サイエンスデイを開催しました！

2月7日（土）に第13回近畿サイエンスデイを梅田スカイビルの36階会議室にて開催しました。

これは、本校のSSH事業の一つの取組であり、近畿・北陸のSSH連携校（石川県立金沢泉丘高等学校・滋賀県立膳所高等学校・奈良県立奈良高等学校・兵庫県立神戸高等学校・大阪府立北野高等学校、大阪府立天王寺高等学校）の6校による課題研究発表会を行いました。

天王寺高等学校SSH運営指導委員に加えて大阪公立大学、大阪大学、京都大学の教授等による、質疑応答ならびに研究交流を行いました。

とても専門性の高い研究発表・交流の場となっており、SSH校にとっては、来年度の全国大会（SSH生徒研究発表会）での入賞に繋がればと期待しています。

《各校の研究テーマ》

石川県立金沢泉丘高等学校

「ドローンプロペラの形状と静音性の関係性について」

滋賀県立膳所高等学校

「内部領域の性質・生成・分析（数学）」

奈良県立奈良高等学校

「L-乳酸から作成したカーボン量子ドットの活用」

兵庫県立神戸高等学校

「廃棄物を用いたバクテリアセルロースの生成」

大阪府立北野高等学校

「プラスチックの有機溶媒への溶解とその再生について」

大阪府立天王寺高等学校

「空気供給量が炎の電圧電流特性に与える影響」



今後も、近畿圏や北陸の各府県のSSHで中心的な活動をしている高等学校が一堂に会し、質疑応答を重視した課題研究発表会を実施することで、互いに切磋琢磨し、参加校のSSH活動の活発化と課題研究のレベル向上を図るとともに、地域全体の理数教育の発展に繋げていきたいと考えています。

